

～行政手続を通じて安心と信頼をつなぐ～

社会を支える 許認可業務



許認可業務とは:事業と公共の調和を図る仕組み

事業を始めたり、特定の活動を行ったりする際、「許認可」という言葉を耳にすることがあります。これは、国や地方自治体などの行政機関が、特定の事業や活動を始める個人や事業者に対し、法令で定められた基準を満たしているかを確認し、その実施を公式に承認する行為の総称です。

なぜ許認可が必要なのか

個人や事業者が許認可を取得する必要がある背景には、主に以下の目的があります。

- 1 安全の確保:** 建設業や運送業など、国民の生命や財産に関わる事業において、適切な設備や体制が整っているかを確認し、事故やトラブルを未然に防ぐため。
- 2 適正な運営:** 飲食業や宿泊業など、公衆衛生に関わる事業において、衛生管理の基準を満たしているかを確認し、健康被害を防ぐため。
- 3 社会的な秩序の維持:** 金融業や警備業など、社会的な信頼性や健全性が求められる事業において、反社会的な活動の排除や公正な取引の確保を目的とするため。

許認可の要件

許認可を取得するためには、業種ごとに法令で定められた厳しい要件を満たす必要があります。一般的に共通している要件としては、以下の3点が挙げられます。

- 1 人的要件:** 事業を適正に遂行できる知識や経験を持つ責任者(例:建設業の常勤役員等(旧:経営業務の管理責任者)、営業所技術者等(旧:専任技術者)など)がいること。また、欠格事由(過去の法令違反など)に該当しないこと。
- 2 物的要件:** 事業を遂行するための適切な施設や設備(例:営業所、車両、衛生設備など)が確保されていること。
- 3 財産的要件:** 事業を安定的に継続するための経済的基盤(例:一定額以上の資本金、預金残高など)があること。

これらの要件を満たしていることを証明するため、申請者は膨大な量の書類を作成し、行政機関に提出する必要があります。事業の規模や内容が複雑になるほど、手続きは煩雑になります。

許認可業務は、事業者が法令を遵守し、社会的な責任を果たしながら、円滑に活動を行うための土台を築く行為と言えます。この手続きを通して、行政機関は個別の事業を適切に管理・監督し、ひいては社会全体の利益と調和を図っているのです。

主な許認可制度一覧

分野	許認可の例	主な根拠法令・所管官庁	主な目的・内容
建設・設備関連	建設業許可	建設業法(国土省)	工事の安全・品質・財務基盤を確認
	解体工事業登録	建設リサイクル法	建築物の解体工事を行うための登録制度
	電気工事業届出	電気工事業法	電気工事の安全基準を担保
飲食・サービス業	飲食店営業許可	食品衛生法(厚労省・保健所)	食品の衛生管理・施設基準を確認
	風俗営業許可	風俗法(警察署)	接待・深夜営業を伴う業種に必要
	旅館業営業許可	旅館業法(保健所)	宿泊施設を営業するための許可
運輸・物流	一般貨物自動車運送事業許可	道路運送法(国土省)	運送業の安全管理体制を審査
	倉庫業登録	倉庫業法(国土省)	倉庫施設の安全・防火・管理体制を確認
医療・福祉関連	介護事業所指定	介護保険法(厚労省)	人員・設備・運営体制を審査
	診療所開設許可	医療法	医療機関を開業する際に必要
外国人・国際業務	在留資格認定申請	出入国管理法(入管庁)	外国人が日本で就労・居住するための資格取得
	経営・管理ビザ	同上	外国人経営者が日本で会社を設立・経営する際に必要
産業・環境関連	産業廃棄物収集運搬業許可	廃棄物処理法(環境省・自治体)	廃棄物の安全処理と環境保全
	古物商許可	古物営業法(警察署)	中古品の売買を行うための許可
	酒類販売業免許	酒税法(国税庁)	酒類を販売するための免許
不動産関連	宅地建物取引業免許	宅建業法(国土省)	不動産取引の公正・消費者保護
	賃貸住宅管理業登録	賃貸住宅管理業法	管理業務の適正化とトラブル防止
製造・販売業	化粧品製造販売業許可	薬機法(厚労省)	品質・安全管理を審査
	食品製造業許可	食品衛生法	食品製造施設の衛生基準を確認

解説コーナー「許可・届出・登録・認可の違い」

- **許可:** 法令で禁止されている行為を特別の場合に解除する行為(例:飲食店営業許可)
- **届出:** 行政に対し、一定の事実を通知する行為(例:深夜酒類提供飲食店営業届出)
- **登録:** 一定の要件を満たした者を名簿に記載(例:倉庫業登録)
- **認可:** 行政などが、その行為を補充して法律上の効果を完成(例:医療法人設立認可)

編集後記

日々の暮らしや仕事の中で、許認可という言葉に触れる機会は少ないかもしれませんが、けれどもその一つひとつが、社会の安心や信頼を支える大切な仕組みです。事業を始め方、地域で活動する方、すべての人が安心して前に進めるように。そんな思いで制度がつくられ、運用されています。

行政手続はときに複雑ですが、その先には新しいスタートと社会への貢献があります。少しでも「仕組みを知って安心できた」と感じていただけたら嬉しく思います。

セブンセンス行政書士事務所 ● 行政書士 上杉武徳

スキルを見える化!

セブンセンスプロフ帳プロジェクト

静岡拠点で生まれた「社員図鑑」をきっかけに、社員のスキルが一目でわかる「プロフ帳」を作成するプロジェクトが発足しました! プロフ帳は、グループウェア上で閲覧可能! いつでもどこでも仲間のプロフィールやスキルにアクセスできるので、意外な発見や新しい挑戦のきっかけに繋がるかも...!? 今回は、このプロジェクトを立ち上げたメンバーにインタビュー! 「どうしてプロフ帳をつくろうと思ったのか?」「どんな未来を描いているのか?」...などなど、発案の背景や企画に込めた熱い想いを語っていただきました。



公式
note
こちらから!



たった30秒! 英語で「Topics」をYouTubeにて配信中!

Please check out our English YouTube page!

YouTubeサイト内[Seventh Sense Group]で検索・登録!

ネイティブスピーカーのスタッフが、日本の税制やビジネス、そのほかさまざまなトピックスを、30秒間でコンパクトに英語で発信。情報収集や英語のヒアリングなどに、ぜひご利用ください!

<https://www.youtube.com/channel/UCi20YyTxji7HpaLT0Lc101Q/>



部活動もアウトソーシングの時代「学校クラブ・地域移行」の話

中学や高校の頃、皆さんは部活をやっていましたか？ 毎日夜遅くまで、そして土日。仲間たちと厳しくも楽しい思い出のある方もいらっしゃるでしょう。

しかし昨今の少子化に伴い、学校単位での部活動運営が難しくなっています。スポーツ庁が示す「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関するガイドライン」では、休日の部活動を地域クラブへ移行する取り組みを、令和7年度までの重点期間として推進しています。これは単なる制度改革ではなく、「地域で子どもを育てる」仕組みへの転換です。

まず注目すべきは、教員の働き方改革への効果。長時間勤務の大きな要因とされてきた部活動指導を地域へ段階的に移し、教員が本来の教育活動に集中できるようになります。部活動指導が、熱意ある教員の善意（または押し付け）に依存してきた構造から脱却し、専門指導者や地域のスポーツ団体が担うことで、教育現場の負担軽減と専門性の向上が同時に進みます。

また、地域スポーツクラブや民間事業者にとっても新たなビジネスチャンスです。既存のフィットネス事業、スポーツ教室などが、地域クラブ運営に関わることで新しい市場が生まれます。

地方では、複数校の生徒が合同で活動する「広域クラブ」モデルが進んでおり、送迎支援や施設共有など、地域経済との連動も期待されます。クラブ運営が地域雇用を生み、コーチやコーディネーターなど“地域スポーツ人材”の育成にもつながります。財源や安全面など様々な課題は残りますが、持続可能な仕組みとなるかも知れません。

子どもたちに多様な学びと成長の場を提供する、教育と地域がともに進化する新しい挑戦がはじまっています。

A～Dに入る数字を足すといくつになるでしょう？
解答は、次月号で掲載します。

	6		4	9		3		
						5		6
2	7		3					
			5		1	7		9
1								2
4		5	8		7			
					9		4	1
8		6						
		9		8	5		6	

解答欄 ^A + ^B + ^C + ^D = 合計

9月号の答え ^A + ^B + ^C + ^D = 合計 20

先達に学ぶ。

「考え抜いて自身を発見する」

坂口安吾
(作家)



人間の本質に向き合い続けた作家、坂口安吾。型破りで豪快な生きざまでありながら、「人間とは何か」という根源的な問いを今も私たちに投げかけてくる。

1906年、新潟県新潟市に生まれた安吾。幼い頃から文学に親しみ、東洋大学印度哲学倫理学科へ進学。大学在学中に語学専門学校アテネ・フランセでフランス文学を読みふけり、同人誌を発行しながら文壇を目指した。他にも古典や仏教にも興味を持ち、後の思想の基盤となる。1931年、同人誌『青い馬』に発表した『風博士』で注目を集め、太宰治や織田作之助らと並び「無頼派」と呼ばれるようになった。

戦時下も執筆を続け、戦後すぐに発表した『墮落論』『白痴』で一躍脚光を浴びる。敗戦直後の混乱期にあって、安吾は人間の「弱さ」こそが生の出発点だと説いた。その後も『桜の森の満開の下』、戦後から現代までの織田信長像に多大な影響を与えた『信長』など、人間の本質や狂気を描いた作品を次々と発表。1955年、48歳で急逝した。

安吾は作家業だけでなく、学校勤めや会社勤めも経験している。その人生は、多様なキャリアを考える現代にも通じるものがある。ライスカレーを100人前注文した「ライスカレー100人前事件」などのエピソードからはその豪快さと創作精神がうかがえる。

「墮ちる道を墮ちきることによって、自分自身を発見し、救わなければならない」。形式にとらわれず、自ら考え続けること。そして、弱さを抱えながら生きていく姿勢。人間の本質を見極めようとした安吾の作品は、今を生きる私たちにも語りかける。

今月のBook Review

専門家も驚いた遺言・相続の内輪話

- 編著：セブンセンス税理士法人
- 出版社：金融ブックス
- 価格：2,200円（税込）
- 発売中

いつ誰にでも思いもよらぬことが起こり得る?! 「自筆証書遺言に捺印がなく無効になった」「家族に内緒で法定相続人を増やし、心理的にこじれた」など、思いがけない相続の場をストーリー仕立てで解説。よくある問題や、想定外の珍しい話まで。遺言や相続の流れを押さえながら、基本知識を得ることができる一冊。



kinyubooks.co.jp

今月、この日に何があった？



1971年11月15日 インテルが世界初のマイクロプロセッサ「4004」の発売開始

1969年、日本計算器販売（のちにビジコンに社名変更）がインテルに開発を依頼。当時、企画中のプログラム制御の電卓に使用するためだった。当初は10種類前後のチップ開発を要望していたが、開発に手間がかかること、ソフトウェアでの制御に置き換えればチップの数を削減できるという方向性になった。インテルとビジコンの共同で開発は進み、プリンタ付き電卓「ビジコン141-PF」に採用された。当初はビジコン社商品専売だったが、その汎用性と可能性に気づいたインテルの希望により契約が変更、インテルから発売されることになった。